V W X



水彩画用筆

すいさいがようふで



筆先の形状





概要

水彩画用筆は、水分量により多様な表情を見せる水彩絵 具の特性を、最大限に活かして描くことができる描画材 です。穂先には、水分の含みがよく、柔軟性と適度なコ シを持った獣毛が主に用いられ、形状やサイズも多種で あることから、様々な描線や塗りが可能です。

筆の穂先に使用される毛には硬毛と軟毛があり、水彩画 用筆では主に軟毛が用いられます。軟毛の筆は、その柔 らかさによって水分との馴染みや含みが良いことから、 微妙な濃淡や流動性を活かした描画、筆跡の目立たない 塗りなどの表現効果を容易にします。水彩画用筆に用い る軟毛の材質には、セーブル (テンなどのイタチ科の動 物)、リス、馬、狸、羊などの獣毛と、ナイロンなどの 合成繊維があります。特にセーブル毛の中で、コリンス キーと呼ばれるシベリアから中国東北部に生息するテン の毛は、毛の形状が紡錘形をしていて、柔軟で穂先のま とまりや絵具の含みが優れていることから、最高級の筆 になります。逆に、安価な筆として、ナイロンなどの合 成繊維毛を利用した穂先があり、アクリル絵具にも適し ています。合成繊維に凹凸などの特殊加工や、獣毛を混 合するなどして、より獣毛のみの筆に近い柔軟性や絵具 の含みを再現したもの(リセーブル筆など)もあります。 また、強めのコシや弾力を利用して描く際は、硬毛であ る豚毛の筆などが最適です。

筆の穂先には、様々なサイズ(大きくなるにつれ号数は上がる)と、丸筆や平筆などの形状が異なるものがあります。特に丸筆は水彩画で多く利用され、絵具の含みがよく、筆運びがしやすいため、伸びがあり流れるような線を描くことができます。また、穂先が細いものは、繊細な線や細密な描画に適しています。一方、平筆は、比較的広い面を均一に塗る際や、エッジを使ったシャープな輪郭を持つ塗りなどができます。その他の筆として、平筆よりも広い面を塗る際に便利な平刷毛や、日本画の制作で用いられる面相筆、彩色筆、絵刷毛なども水彩画で利用できます。

新しい筆を使用する際は、筆先が糊などで固めてあるので、水に浸けて十分に糊を取り除いてから使用しましょう。また、筆の使用後は、水やぬるま湯で、丁寧に穂先

J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

の根本に残った絵具までしっかり取り除き、穂先を整えて自然乾燥させましょう。獣毛の筆などには、専用のクリーナーやリンスなどで手入れをすることで、長持ちさせることができます。

水彩画用筆は、一般的な画材店で購入できます。

毛の種類



筆のサイズ(丸筆・リス)



筆の持ち方 一般的な描画の場合 細部を描く場合















